



## 年頭ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長

黒川博昭

新年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。皆様にとりまして、新しい年が明るく実り多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は、デジタル家電機器を中心とした個人消費と輸出が主導する形で、日本経済は概ね好調に推移してきました。後半に入って、原油価格の高騰、ドル安などの不安要因が出てきたものの、今後とも、ある程度持続的な成長を期待できるものと考えております。

ITの活用ということで見れば、ユビキタス社会の到来に代表されるように、ITの活用が企業、個人、社会へ大きく広がり、複雑化や多様化を一層強めるとともに、ITのもたらす利便性は飛躍的に広がりつつあります。その中で、様々な業種・業態のお客様とお話をさせていただくと、新しい技術や活用に対する強い関心を感じると同時に、お客様にとって「ITはつくるものではなく活用するもの」というお客様の意識の変化を実感しております。

お客様がITを活用し、事業のスピードを上げ、一步も二歩も前に出る事を実現するために、富士通はお客様に信頼されるパートナーとならなければなりません。そのためには、お客様の経営に役立つIT活用とは何かという事を一層念頭に、ITとユビキタス社会を支える富士通の技術基盤をより強くし、スピードをもって、お客様が活用できる製品・サービスとして提供し、そしてそれを事業として成長させることが求められていると考えています。

そして、お客様のパートナーとして信頼されるためには、富士通の経営体質を更に強くすることも必要です。2003年度決算、2004年度上期決算においては、富士通の業績回復をご報告できたことで、お客様に様に喜んでいただきました。やはり経営を支える大事なITを任せるパートナーとしては、経営の健全性が非常に重要だということに改めて痛感致しました。そういう意味で、今年も、お客様に信頼される企業として経営体質をより強くしていくために、「お客様起点で考え、行動し続ける」、「品質と納期を守り続ける」、「スピードを上げ続ける」という基本を愚直に追求し、利益体質を定着できるよう一層努力をしていきたいと考えております。

ここで、今年の事業別戦略の一端についてご紹介させていただきます。

ソフトウェア・サービス事業におきましては、昨年、「お客様起点で考え、行動する」ことを徹底するために、営業とSEを一体化する組織再編を行いました。その再編を通して、お客様をより深く理解し、お客様のスピードに対応し、事業とITのライフサイクル全体を支援できる体制をつくりあげ、お客様の「ITはつくるものではなく活用するもの」への変化に対応していきたいと考えております。

プラットフォーム事業では、オープンな世界でのミッションクリティカルシステムの実現や、システムの複雑化を解決するため、IT基盤「TRIOLE」のコンセプト展開を拡大してまいります。昨年12月には、プラットフォームソリューションセンターを

開設しました。お客様にとってのIT活用の価値を実証しながら、TRIOLEに基づくシステムを、最高の品質と最短の時間で、お客様へ提供できるようにしてまいります。同時に、プラットフォーム事業の強化・補完、世界市場でのシェア拡大を実現するため、昨年、サン・マイクロシステムズ、インテル、マイクロソフト、シスコシステムズ、レッドハットなどとの戦略提携を発表致しました。今年、TRIOLEのグローバル展開の本格化、戦略パートナーとの関係強化を軸にして、グローバルビジネスのフォーメーション再構築を実行していきます。

電子デバイス事業では、「Integrated Device Manufacturer (IDM)」という新しい事業モデルを具体化してまいります。国内外のパートナー企業様と商品の開発設計段階から技術・資金面での協力関係を築き、新しいテクノロジーの立ち上げ初期段階から安定的に商品を提供する、半導体事業の新たなモデルとなります。このIDM戦略の一環として、最先端の90/65 nm CMOS技術による300 mmウェハのロジックLSIの製造を、今年4月から三重工場の新棟で開始致します。

富士通はこれからも、お客様へ提供するプロダクト、サービス、サポートのすべてに技術へのこだわりを持ち、ITにおける技術革新をリードする企業でありつづけたいと思っています。そして、お客様の経営のパートナーとして、今後もお客様と共に成長する努力を続けてまいります。

最後に、今年も倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。